

様式第4号（第5条関係）



政務活動費収支報告書

令和2年3月31日

（あて先）飯能市議会議長

議員氏名 大 津 力



飯能市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項の規定に基づき、下記のとおり令和元年度の政務活動費収支報告書を提出します。

1 収入 政務活動費 180,000 円  
2 支出 45,000 円

（単位：円）

科目	金額	備考
調査研究費	45,000	吉野町会派視察
研修費		
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費		
人件費		
事務所費		
その他の経費		
合計	45,000	

3 残額 135,000 円

- （注）
- 1 備考欄には、支出の内訳を記載すること。
  - 2 領収書その他支出を証する書類の写しを添付すること。
  - 3 政務活動費収支報告書に係る政務活動事業実績報告書を添付すること。

政務活動事業実績報告書

議員氏名 大津 力

飯能市議会政務活動費の交付に関する規則第5条第2項の規定により、令和元年度政務活動費に係る事業実績報告書を次のとおり提出します。

月 日	事業名	事業概要及び成果等
令和元年 7月9日	先進都市視察	<p><b>奈良県吉野町立吉野中学校</b></p> <p><b>◆視察目的</b> 「愛・学習机プロジェクト」と題した地場産の木材を利用した学習機の取り組みを調査するため。</p> <p><b>◆成果</b> 平成21年に吉野中学校の校舎建て替えを機に、老朽化した机や椅子の新規導入を検討。ふるさと教育の推進、吉野産材の活用を考慮し、5年間の準備期間を経て、平成26年度から導入が始まった。発案者は、表谷さん。産業観光振興課は企画、財政措置を担当。学校は、ふるさと教育・木育の学習を実施。Rc：吉野と暮らす会は、ワークショップの協力・メンテナンスの実施し、木材関連企業の経営者、地元のボランティア、等で構成されている。初年度の平成26年度は、中学生1～3年生の在校生徒全員を対象に実施。夏休みに学校に来て、組み立て。2年目の27年度から、卒業生は取り外し、新1年生は組み立てを春休み中に実施。約半日作業。作業前に、木が育つ過程や、伐採、製材の過程をビデオで上映。その後Re：吉野会の指導のもと、組み立て。卒業生は、天板に友達からの寄せ書きをしてもらっている。導入時の費用は81.0万円（机・椅子150セット @5.4万）45万円（天板32枚 @1.4万）導入後は、50万円（天</p>

		<p>板人数分 @ 1.5万)。財源はふるさと納税100%で賄っている。導入して生徒たちはとても喜んでいる。また、小学生は、中学生になると自分で机を手作りできるということを、兄弟や周りの人から聞いていて、その時を楽しみに待っている。しいて問題点を挙げるとしたら、つくえの引き出し(収納部)がいっぱいになること。JISの学習機の規格は適合している。節のある材は、埋めて使用している。経年劣化の程度は、3年間は無問題なく使っている。反り、割れもない。硬度は、合板の既存品より柔らかいが、特に問題はない。3年間使用したものは、多少傷はついてた。材料供給や生産は、地元業者により、材料供給、生産を行っている。材料は、間伐材。塗装の回数は1回。ESHA米ぬかワックスを使用している。市販する場合の価格は、天板部分で1.5万円、スチールの足を入れて4万円。他市への販売実績では、問い合わせはある。その他の効果として、インフルエンザの罹患者が減った。県の調査でも裏付けデータがある。</p> <p>◆参加者3名 大津 力 議員 野口和彦議員 内田 健次 議員</p>
--	--	--

<p>令和元年 7月10日</p>	<p>研究研修</p>	<p><b>奈良県吉野町 清光林業株式会社</b></p> <p><b>◆視察目的</b> 持続的な森林経営の取り組みを調査するため。</p> <p><b>◆成果</b> 清光林業は、昭和25年に設立された大阪に本社を置き吉野町に支社を置く会社である。主な事業として、山林事業、木材事業、プロダクト開発を行っている。昭和のはじめ、世界的な不況の影響を受け吉野材の価格は下落し、林業経営は厳しい時期を迎えた。当時の吉野地域には製材所は少なく、原木丸太のままでの販売が中心であった。吉野川の上流の川上村や東吉野町から伐り出された原木丸太は筏に組まれ、吉野川を下り、吉野町を通過して、和歌山まで運ばれた。そこには原木市場があり、丸太が販売されていた。このような販路状況では、吉野材の価格を上昇させる要素はなく、持続的な林業の実現の為に打開策が求められていた。昭和8年、当時の林業家達が力を集結し、奈良県の支援も受け、県営吉野貯木場の計画が誕生した。この計画は、原木丸太のままの販売ではなく、製材加工という付加価値を付与することで、吉野材の需要拡大と価格上昇を目指した画期的な事業であった。また、貯木場は、吉野神宮駅が隣接していたため、この駅から貨物専用の線路が貯木場内に引き込まれた。材料と生産と流通、の3点が揃った木材工業団地があったからこそ、その後の吉野材の隆盛につながった。その隆盛の背景には、100年、200年、300年、400年に渡る吉野の先人による造林、育林の積み重ねがあった。数百年物の檜の林には、凛とした雰囲気だけでなく、神々しさも感じさせるものがあった。持続的な森林経営には、この先人が守ってきた積み重ねを次代に繋ぐ思いも必要な要素と学んだ。</p>
-----------------------	-------------	---

		◆参加者3名 大津 力 議員 野口和彦議員 内田 健次 議員
--	--	-----------------------------------